



令和7年度学校経営計画書

学校名 三次市立十日市小学校

校長名 古本 宗久

I 学校の状況

学級数	21	児童数	544名	教職員数	62名
メールアドレス	tohkaichi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/tokaichi/				

II 学校教育目標

- 高い志をもち 夢の実現に向けて 自分らしく 他者とともに社会を創る 児童の育成

III ミッション（地域社会における自校の使命・存在意義）

- ミッション 学校に関わる人が幸せになるための仕組みになる。
- ビジョン 人が輝き、心が動く学校を創る。
- 経営理念 大切なひとに誇れる学校であり続ける。
- スクール ステートメント 学ぶ人は、自分を変え、学校を変え、社会を変えていく。
～「学び」と「繋がり」と「ケア」～
- 育てたい子どもの姿 子どもたちが、自ら学びと生活をデザインする。
- 十日市中学校区のめざす資質・能力
 - ・ 主体性 自らの役割や責任を認識し、目的をもって意思決定する。
 - ・ 表現力 自他の立場を尊重し、表現する。
 - ・ 協働性 よりよい社会や生活を創るために、行動する。

IV 重点事項（努力点）

- 観を磨く ファシリテーション※1 力の向上と児童理解の深化により、児童の学びと生活のデザインを支援する。
- 対話を紡ぐ 共同エージェンシー※2 を育て、建設的な対話により行動を促し、児童と集団に好影響を与える。
- 組織を繋ぐ チームワーキングにより本音で共創し、他者と繋がり学校の創り手となるリーダーシップを育てる。
- 働き方を宿す イノベーター※3 として思考と行動を往還し、自分と他者を変革しエンゲージメント※4 を高める。

V 中心価値・行動規範（十小バリュー A to E）

- Act Boldly 大胆に行動する。
- Build Equal Trust 信頼し、信頼される。
- Create the First はじめてをつくる。
- Do a Professional Work プロフェッショナルであれ。
- Express as a Team チームとして取り組む。

VI 現状分析

本校は、「広島県小学校教科担任制推進事業」「広島県小・中・義務教育学校生徒指導サポート実践校事業」の指定を受け、実践的な研究を進めてきた。

学習指導は、TKFモデル「T・創る」「K・語る」「F・振り返る」「S・焦点化する」をベースに、第4学年から教科担任制を実施することで、児童の思考力・表現力は高まり、教科や特別活動等の話し合い活動に好影響を与えている。

また、生徒指導は、中間的集団を承認する活動や、特別活動等で異学年の交流やエージェンシーを育てる取組により、主体性や協働性が育ってきている。さらに、集団が苦手な児童や学級になじみにくい児童に係り、タブレットを活用した学校生活の計画や授業、保健室・サポートルームの支援により、児童個々の状況に応じた取組を進めている。

働き方改革は、衛生委員会で毎月に業務改善について検討し、分掌部では少人数で課題に継続的に対応するなど、コアチームで取組を進めている。教職員のエンゲージメントは高い状態を維持しており、在校時間は低減傾向である。

しかし、学習指導では対話的な学びに課題があり、生徒指導では不登校児童が増加傾向であり学校で生活しづらい児童への相談支援体制が必要である。

教職員においては、児童と教職員の共同エージェンシーを高めることが重要である。働き方では、学校経営に参画し文化と仕組みを創るために、本音で共創し自他が変革する組織開発を進めることが未来の働き方に繋がると考える。

令和6年度の成果と課題を踏まえ、本年度は次の5点を重点として学校経営を進める。

- (1) 研究科目を「ことば」「理・数」「探究」「インクルーシブ※5」の4領域とし、全教職員の資質能力を向上する。
- (2) 居場所感を高める環境づくりを進め、学校で生活しづらい児童と保護者への相談支援等、早期のチーム対応を行う。
- (3) 生活科・総合的な学習のカリキュラムを再編し、地域と繋がり地域課題に向き合う概念型の探究学習を進める。
- (4) 学校規模のメリットと校舎改築を見据えて、異年齢交流や帯学年交流を活性化し共同エージェンシーを育てる。
- (5) 教職員が学校運営に参画し、健全で協働的な同僚性を発揮し、個とチームの成長を促し組織開発を進める。

項目	三次市学力到達度検査		全国学力・学習状況調査			教職員の働き方	
	全国を上回った科目	三次市を上回った科目	自分にはよいところがある	学校に行くのは楽しい	夢や目標がある	勤務時間外の月平均在校時間	月30時間以内
令和3年度	17/20	9/20	77.2	68.4	75.0	36時間46分	23.3%
令和4年度	17/20	13/20	81.4	82.4	79.3	25時間26分	58.6%
令和5年度	13/16	8/16	91.4	89.7	85.5	26時間08分	74.2%
令和6年度	15/16	12/16	90.7	86.0	81.4	23時間48分	86.2%

- ※1 ファシリテーション 会議やミーティングを円滑に進める技法。
 ※2 エージェンシー 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力。
 ※3 イノベーター 新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し社会的に大きな変化を起こす人。
 ※4 エンゲージメント 戦略・目標を適切に理解し、自発的に自分の力を発揮する貢献意欲。
 ※5 インクルーシブ 共生社会の実現に向けて、多様な子どもが共に学び成長できるような環境づくり。

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

中期経営目標		短期経営目標	事業	具体的な取組・方策
確かな学力	指導の個別化と学習の個性化により、児童に生きて働く知識・技能の習得と探究による課題解決を図るとともに、「伝える」「書く」を重視し思考力・判断力・表現力を育成する。	変容型・グラフィックファシリテーションとＩＣＴ機器による授業改善，概念型の探究学習等を通して，基礎学力の定着と活用する力の向上を図る。	「基」 授業の 基本の 充実事業	○水平型と垂直型のファシリテーションを行き来し，見える化により対話の場をデザインし，表現力を高める。 ○インテイクしたことを，自分なりにできるところまでアウトプットし，話合いのコツ等により広げ深める。 ○授業や家庭学習等で，ＩＣＴ機器やメタ認知活動を取り入れ，学習履歴をまとめて表現し，概念的に振り返る。
		インクルーシブな環境を土台に「ことば」「理・数」「探究」の領域で学びを広げ深める「めあて」「対話」「振り返り」を創り，授業研究で内省により自分とチームの成長を加速する。	授業 充実 研究 事業	○TKFモデルを「社会」「算数」「理科」で援用し，「問い」を立て目標を達成する教科教育学の研究を行う。 ○多様な考えを生かし，学びを広げ深める対話的・協働的な場面を，各教科等の特質や内容に応じて設定する。 ○概念型の探究学習の基礎を設計し，「Q-A map」による単元の構想と思考を促す問いについて研究を行う。
豊かな心	社会の一員として公共の精神を尊重し，居場所づくりの取組により，児童の自己効力感を高め，自分と他者を大切にすると人間関係を育成する。	社会生活への自律に向けて，児童の抱える多様で複雑な状況に応じて，他者や社会との繋がりをデザインし，居場所感を高め個人と集団のウェルビーイングを高める。	生徒 指導 充実 事業	○学校や社会のルールを守るだけでなく，みんなが楽しく学校生活を送れる文化を創る意識を育てる。 ○不登校予防に係る早期のチーム体制を確立し，学校生活を安心して過ごせる居場所づくりを行う。 ○ソーシャルスキルや特別活動等に取り組み，被受容感・充実感・自己存在感・安心感を促進する。
		児童が責任をもって教職員とともに意思決定し，異年齢交流や帯学年交流，地域課題の解決等を通して主体性と協働性を発揮し，変化を起こす共同エージェンシーを育てる。	エー ジ エン シー 育成 モデル 事業	○児童が企画・運営する行事等を，共同エージェンシーにより助言・支援し，主体性や協働性を育てる。 ○クリエイティブなリーダーシップを発揮し，自分のよさや得意なスキルを生かし，課題に果敢に挑戦する。 ○様々な集団の社会・学校づくりに参画し，多様な考え方を知り，解決に向けて合意形成を図りながら実践する。
健やかな体	「時間」「空間」「仲間」を意識した体力づくりの推進と生活習慣の確立により，児童が健康・安全で活力のある生活を送る力を高める。	児童個々の運動量を確保する活動と種目を絞った体力づくり，生活習慣を整える取組等により，児童が自ら課題をもち解決を図る実践力を高め，楽しさを実感しながら，体力の向上を図る。	体力 充実 事業	○重点種目の目標を設定し，体力の向上を図るとともに，ノーマディアデー等により生活習慣を改善する。 ○業前のふれあいタイムで心と体をほぐし，業間のチャレンジタイムで記録に挑戦するなど，運動に親しむ。 ○タブレットや記録カードを活用し，児童が運動や健康の課題について克服・達成の仕方を考え，解決を図る。
信頼される学校	家庭・地域社会との連携を深め，目的をもって意思決定し，よりよい社会や生活を創るために行動する学校づくりと働き方を進める。	本音で共創するチームワーキングにより中期的な視点で協働的・創発的に業務を進め，イノベーターとして実現可能な形にして行動し，個々の職能成長と組織の成熟を図る。	チ ーム ワー キング 推進 事業	○教職員の裁量を拡大し，学校の課題に応じてチームで事業化して企画・実行し，児童や組織等の成果に繋げる。 ○現在実施している業務を，深堀と探索の視点で見直し，収束と拡散思考を通して行動化し，組織開発を進める。 ○弱い紐帯により多様な他者と繋がり，建設的な意見交換を通して自他を変革し，職能成長を図る。
		地域住民や民間企業・生産者等，児童の関心の深い人物や，自然環境，公共施設，伝統行事等と関わり，新しい挑戦や発見の機会をもちながら，深い学びを実現する。	コ ミ ュ ニ ティ ・ ス ク ール モデル 事業	○地域や施設等での体験的な学習を通して，地域の課題に関心をもち，問いを創り，自分なりに解決を図る。 ○活動を児童がデザインし，多様な他者との交流等を通して探究したことを言葉や行動にして地域等に発信する。 ○体験的な活動や見学，その際の本質的な問いや複雑な対話等により地域の課題に迫り，解決案を提案する。

VIII 学校経営構想図

